



令和 7 年度護持会会計報告

入金の部				
款	項	項目名	摘 要	収入金額 備 考
1		繰越金	前年度繰越金	63,241
2		護持会費	令和 7 年度入金	3,604,838 1口10,000内訳 (護持会費7,000営繕積立金3,000)
		合 計		3,668,079

支出の部					
款	項	項目名	摘 要	支払金額	備 考
1	1	振込金	振替手数料	102,462	295口
		小 計		102,462	
2		保険料			
	1		自動車	100,000	
	2		保険 (火災・地震・家財)	506,670	
		小 計		606,670	
3	1	租税公課			
			宗務所費	136,120	
		小 計		136,120	
4		仏具等			
	1		正法堂 (暦)	139,030	
	2		丸井紙店 (金方除)	49,938	
	3		仏具費	82,400	
	4		日蓮宗新聞社	123,000	新聞、本尊、その他
		小 計		394,368	
5		事務通信費			
	1		常清寺だより (年2回)	123,200	
	2		封筒・はがき代	215,085	
	3		ホームページ保守管理	201,902	
	4		送料等	241,550	
	5		事務機器メンテナンス・事務費	705,211	事務機器購入費、宛名印刷機リース代含む
		小 計		1,486,948	
6		営繕費			
	1		消防設備点検工事	209,550	年 3 回
	2		自動ドア定期保安料	95,040	
	3		電気安全保安管理費	198,000	
	4		伐採除草工事代金	286,000	
		小 計		788,590	
		支出合計		3,515,158	
			次年度繰越金	152,921	

護持会会長 我妻隆介 ㊤
護持会会計 矢島昭八郎 ㊤
護持会会計監査 有泉春夫 ㊤

以上の通りご報告致します。

寺 報

常清寺だより

住 職 挨 拶

榮玉山 常清寺 第二十四世

住 職 片 山 徳 宣

合掌

桜花爛漫の季節も終わる今日四月の中旬に筆を執っております。住職となり早くも半年となります。大きな事故もなく過ごしております。ただ二人が一人となりますと全てを自分自身で行わなきゃいけない大変さを日々実感しております。なんとなく新しい形を作るにはまだ時間が掛かりそうです。

さて、今年度もお盆の季節が近くなってまいりました。毎年更新する最高気温で戦々恐々としておりますが、当山の施餓鬼法要は例年通り七月十二日午前十一時・午後十四時に厳修致します。

御檀家様から暑くてお参りに行けないとのお話もよく耳に致しますが、お塔婆はご希望の方にはお墓を管理しているお茶屋さんに届けますのでお申込み用紙にお書き添え下さい。

世代交代をしていく中で考え方も変化が必要かもしれません。例えばお墓参りもお盆中、お彼岸中ではなくて今日は陽気が良いから行こうとか、そんな風にゆとりを持つと義務では無く心地よくお参り出来る感覚になるかもしれません。他の寺院では解りませんが、私がご法事の依頼を聞く時、これからの季節は四十九日以外の方には「喪服で来ないで下さい。」と言っています。法事に来て暑さで体調を崩したら元も子もありません。少しづつ変化することがご法事でもお墓参りでも必要です。暑さが原因でご先祖のご供養

が疎かにならない事を祈ります。

これからの季節は水分補給が大事になります。どうか皆様もしつかり暑さ対策をして頂き夏を乗り越えて下さいませ。

再 拜

施 餓 鬼

「施餓鬼会」、「施餓鬼法要」と呼ばれております。地域によつては「川施餓鬼」、「海施餓鬼」が行われます。

お釈迦様の弟子である阿南尊者そんじやの前に口から火を吐いている餓鬼があらわれて「お前の寿命はあと三日だけで、死んだら餓鬼になる」と言われます。そこで、お釈迦様に教えられたお経を唱え、餓鬼に飲食の施しを行うことによつて寿命を延ばし天寿を全うできた、と伝えられております。

仏教では、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天、声聞、縁覚、菩薩・仏と十種の世界があると考えます。

日蓮大聖人は「瞋しんは地獄、貧は餓鬼、痴ちは畜生」すなわ

常清寺の施餓鬼法要

令和八年七月十二日 (日)

午前十一時より

新盆の方中心の法要

午後二時より

一般の檀信徒中心の法要

法要のご案内は別途お送り致します。まことに恐縮でございますが、お塔婆のお申し込みは、六月中にご返信下さいますようお願い申し上げます。

お 願 い

住所変更、電話番号の変更等必ずお寺にご連絡をよろしくお願い致します。又よろしければ携帯電話の番号を教えて頂ければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

去る五月十二日（火）、常清寺で午後一時より「自我偈百部経読誦会」が行われました。

法華経中の最重要品である「如来寿量品第十六」を繰り返し深く読誦します。通常は「百部経」と言われていますが歴史は古くて今回が第八十九回です。始まりは昭和の初め頃で、災害や戦争などで犠牲になられた方々の慰霊のために行われましたがコロナ流行の時は中止となりました。毎年五月に五日間（五ヶ寺）連続で行われます。主催は「横浜立正協会」で、協会加入の寺院が持ち回りで会場となります。当日のプログラムは、読誦会（午後一時・三時より）、お説教（法話）（午後二時より）でした。読誦会の導師は常清寺第二十三世が、法話は川崎市安立寺御主・木田隆正上人がお勤めになりました。

自我偈百部経読誦会



当日の案内板



導師(常清寺第二十三世)昇堂



導師と参加他寺院のお上人方



自我偈読経(太鼓は常清寺修養会メンバー、後列は他寺院から参加の皆様)



第1回目の読誦会終了、導師の挨拶



会場の地下1階ホール風景



法話は、安立寺御主 木田隆正上人



お説教(法話)に聞き入る



法話終了、木田上人退出

清正公大祭国禱会

加藤清正公の縁日として又、国家の安泰、檀信徒のภายใน安全、身体健全、病氣平癒、商売繁盛、その他などのご祈禱会です。住職導師のもと、中山法華経寺の大荒行堂で十一月から二月の寒中、百日間の厳しい修行を終えた修法師のご出仕を頂き行なわれ、沢山の檀信徒が参加されました。ご祈禱は当日の午前十時、十二時、午後二時、同四時の四回行われます。長者町の清正公堂分院でも午後三時から行われました。参加者にはお寺からお守りの「木札」と「清正公御勝守」が頂けます。参加ご希望の方は寺院までお知らせ下さい。



お守り木札



御勝守



当日の境内



導師(常清寺二十四世)と修法師のお上人方



昇堂



御宝前に加持祈禱



参加の檀信徒の皆様



檀信徒一人一人に加持祈禱



ご祈禱会終了に当たって住職挨拶



長者町の清正公堂分院での加持祈禱